

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・社会生活に必要な 国語の知識や技能。（漢字・語彙・文法） ・我が国の言語文化に 親しんだり理解する力。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする 力 ・他者との関わりの中で伝え合う力 ・自分の思いや考えを広げたり深めたりする力

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校段階での漢字や語彙の定着が不十分である。 イ 文章や他者の意見から、自分の考えを表現することが難しい。	ア 毎時間、小学校の漢字の書きとりを行う。 単元ごとに進出漢字の練習や語句の意味調べを行う。 イ 自分の意見の表現方法や、語彙について指導し、単元ごとに意見を書く活動を、繰り返し行う。	ア 市学力調査【知識・技能】57.4% イ 市学力調査【思考・判断・表現】39.5% 漢字を読む力や、文章の内容を正確に読み取ることはしない平均を超えている。文法や文章作成に課題が残る。
第2学年	ア 文章を書く技術や文法の知識の定着が不十分である。 イ 論理的に文章を読解したり、根拠を述べたりすることが苦手である。	ア 文法や文章の構成について、詳しく説明し同様の問題を繰り返し出し、定着をはかる。 イ 文章の中から根拠を探す練習や、客観的な事実を根拠に文章を書く練習を課題を変えて繰り返し行う。	ア 市学力調査【知識・技能】72.6% イ 市学力調査【思考・判断・表現】51.7% どの項目においても平均値と同値もしくは高いが、文書作成項目では市内平均を10ポイントを下回っている。
第3学年	ア 文章を書く技術や文法の知識の定着が不十分である。 イ 自分の意見や考えを、理論的に構成し、文章に表現することが苦手である。	ア 実際に文章を書くことを想定した問題を用い、文法や、文章の構成を考えることができる問題を繰り返し行う。 イ 物語文、説明文、古典など文の種類にかかわらず、毎単元、筆者のものの見方や考え方に対する意見文の作成を行う。	ア 定期考査【知識・技能】 イ 定期考査【思考・判断・表現】 古典の読み取りを習得した。意見文を書かせる活動を増やした結果、筆者のものの見方や考え方について、自分の考えを述べるができるようになった。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年 ・意見文など特に書いて表現する活動を行う際は、タブレット PC を使用する。 Teams を用いて提出させることで、全生徒にフィードバックを行う。 ・文法をパズル形式にした問題を、Teams で共有し取り組ませることで、視覚的な理解を促す。	全学年：プリントに自己評価や振り返りの記入欄を作り、復習を促す。 1・2 年：文章作成を行う際は、教科書の題材だけでなく、生徒の生活により近い題材を複数用意する。生徒が選択し興味をもって課題に取り組めるようにする。 3 年：様々な題材に対し意見や感想を交流させることで、生徒自身で課題解決できる力を養う。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて				
	ア	知識及び技能	イ	思考力、判断力、表現力等
・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解		・数学を活用して事象を論理的に考察する力		
・事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能		・数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力		
		・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力		

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校段階での知識や計算等の理解が不十分である。基礎的な知識・技能の定着が不十分である。 イ 事象を数学的に表現することが苦手である。数学を用いて事象を考察することが苦手である。	ア 反復練習や定期的に小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。説明する機会を積極的に設定するとともに、良い説明の仕方について、そのモデルの共通理解を図る。	ア 市学力調査【知識・技能】50.8% イ 市学力調査【思考・判断・表現】34.0% 比例・反比例の正答率は市平均を超えたが、文字式は市平均より10%近く低い。
第2学年	ア 基礎的な知識・技能の定着が不十分である。 イ 事象を数学的に解釈・考察することが苦手である。論理的に説明することが苦手である。	ア 反復練習や定期的に小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。良い考え方を共有し、モデルの共通理解を図る。	ア 市学力調査【知識・技能】54.8% イ 市学力調査【思考・判断・表現】33.2% 全ての内容で、市平均を上回っている。図形の性質に関しては、目標値を約11ポイント超えている。
第3学年	ア 基礎的な知識・技能の定着が不十分である。 イ 数量や図形の性質を見出し、証明することが不十分である。（命題の構成と論証）が苦手である。数学を用いて事象を考察することが苦手である。	ア 反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 良い考え方を共有し、モデルの共通理解を図る。	ア 定期考査【知識・技能】 イ 定期考査【思考・判断・表現】 小テストの結果等により、定着が見られた。学習に対する取り組みが良くなり、平均正答率が向上した。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年共通： ・e ライブラリやデジタル教科書を活用し、問題演習量の確保と知識・技能の定着を図る。 ・Kahoot!を用いて、演習を積極的に取り組むことを促す。	全学年共通： ・定期考査ごとや単元ごとなど、定期的に自身の学習の取り組みについて振り返りを行い、学習方法の反省や修正・洗練を促す。 ・学習内容について復習する課題を出すことで、学習内容（既有知識）の定着とそれに伴う「学びに向かう力」の定着を図る。